

休日当番病・医院

8月31日(日)

- | | | |
|-----|--------------------|---------|
| ◆内科 | 夜間・休日急病センター
旭町 | 32-0099 |
| ◆外科 | 勤医協苫小牧病院
見山町 | 72-3151 |
| ◆歯科 | いずみの歯科クリニック
川谷町 | 76-0178 |

療時間：内科＝9時～翌朝7時、外科＝9時～17時、歯科＝9時～12時。本紙は毎週火曜日に編集のため、その後に休日当番医が変更になってもお知らせすることはできません。ご利用されるときには、あらかじめ電話でお確かめください。



法律相談



親身な相談で定評

しんぶん赤旗読者のための

9月25日(木)
西山 雄弁護士

(定員になり次第締め切ります)
日本共産党苫小牧地区委員会
苫小牧市見山町2-2-6 申込 56-5002

日本共産党

民主苦小牧

発行 日本共産党苫小牧地区委員会

苦小牧市見山町2丁目2番6号 電話 56-5002 fax 56-5086
 日本共産党のホームページ <http://www.jcp.or.jp>
 苦小牧市議団ホームページ <http://jcp-tomakomai-shigidan.com/>
 eメールアドレス commun@rose.ocn.ne.jp

憲法9条活かすことが日本の進むべき道

紙・畠山・宮内氏ら終戦の日宣伝

再び戦禍招かない誓い



認め、反省が表明されまし
た。95年「村山談話」で
は、植民地支配と侵略への
反省も表明され、98年「日
韓共同宣言」でも同様でし
た。

第2次安倍内閣は、これらの反省を一掃し、集団的自衛権の容認など「戦争する国づくり」のレールを敷いただけでなく、歴史をゆがめ、異なる政治姿勢がこの間の新たな極右・排外主義の流れを生みだしています。

佐藤綾札幌市議が司会を務め、参加者が「戦争を止めたい」「若者を戦場に送るな!」のプラスタを掲げてミラを配布しました。

島山氏は、マレーシアのマハティール元首相が日本被団協との懇談で、「自国にも日本の9条のように戦争放棄を

9月市議会 4日招集

一般質問に小野寺、原氏

苦小牧市議会の9月定例会が4日招集され、会期は12日までの予定です。一般質問には、日本共産党市議員は小野寺幸恵、原啓司の2議員が登壇。政府の大軍拡や、教育と暮らし、医療・介護の問題などをただします。9月末からは決算審査を予定。

市議団では、市民のみなさんの傍聴を呼びかけています。

- ★ ★
- 9月4日～9日 一般質問
- 9月10日 常任委員会
- 9月11日 特別委員会
- 9月12日 残余議案審議

子ども版防衛白書で自衛官勧誘

防衛省 全国の小学校等に配布狙う

防衛省は2021年から「防衛白書」と一緒に「まるわかり! 日本の防衛」と題した解説を公開する。漢字にはふりがなを振り、写真やイラストを多用している。

する子ども版「防衛白書」を毎年作成しています。小学校高学年、中学生、高校生を対象に自衛隊の任務や防衛省の

25年版の子ども版「防衛白書」は、防衛政策や安全保障環境を解説していた従来の構成から大きく変わり、自衛官の勧誘に力点が置かれました。全体の半分以上を自衛隊

の歴史を繰り返すかのような勢力に、これからの日本の政治を任せるわけにはいかない」と訴えました。

宮内氏は、自分たちは戦争を知らない、体験者から直接話を聞ける最後の世代だとし、戦争しないための努力をする政治に変えようという日共本共産党の提案を紹介しました。

紙氏は、日本が唯一の戦争被爆国として核兵器禁止条約に批准し、核兵器廃絶の先頭に立てる国になるよう、引き続き力を合わせると表明しました。

マイナカード強制になる党
**健康保険証の
廃止 撤回を** 日本共産党

員の災害派遣任務や日常生活、装備品の紹介に充て、表紙の作画も10く20代の「Z世代」を中心に人気のイラストレーターを起用しています。

一方、中国やロシアを名指しして脅威をあり、抑止力の強化や日米同盟を当然視しています。

防衛省は今春、24年版の子ども版白書を全国24000の小学校に計6100冊配



布。全教の調査では青森、岩手、山形、福島、長崎など8県に配布しています。（苫小牧は配布されていません）。

防衛省は、事前に文部科学省に確認したとしていますが、文科省は全教の要請に對して「他省庁の作成物の内容にコメントする立場にない」とし、各自自治体が判断するものと事実上黙認しています。

教育現場では戸惑いが広がり、子どもの目に触れない限り、子どもの目に触れない限り、子どもに配布する小学校も出ています。定員割れが続く自衛隊は応募者数の減少が深刻となっており、同白書を学校に配布することで募集増につなげる狙いがあるとみられます。

防衛省は、25年版の子ども版「防衛白書」を配布するにかについては「引き続き検討する」と否定していません。

◆日本共産党は創立103年、国民の切実な要求実現のためにあらゆる可能性を追求します。

国は謝罪し直ちに被害回復を

共産党国会議員団

生保減額違法で要請



用者への謝罪や、ただちに被害回復を行うことなど4点を求めました。

田村智子委員長、小池晃書記局長、山添拓政策委員長、辰巳孝太郎・本村伸子両衆院議員、岩淵友・吉良よし子・白川容子各参院議員が参加しました。

田村委員長は、生活保護費引き下げは、12年の総選挙で「生活保護10%削減」を公的に掲げて発足した第2次安倍政権への付度そのものだとして、「最高裁判決は生活保護法という最低限の生活をどう守るかという法律への違反を認めたもの。判決を重く受けとめているなら、国の謝罪が出发点です」と迫りました。

生活保護基準の大幅な引き下げ(2013~15年)を違法とした最高裁判決(6月)を受けてなお国が原告に謝罪しないもとで、日本共産党国会議員団は19日、政府に対し直ちに生保利用者に謝罪し、引き下げ分を補償するなど、早期の全面解決を求める申し入れを行い、要請書を提出しました。

要請書は、最高裁判決が国の生活保護行政に対し、「個人の尊厳」「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」(憲法13条・25条、生活保護法3条)を侵害し続けたことを厳しく断罪した画期的判決だと指摘。保護基準引き下げの影響を受けた全ての利

「消費税減税とインボイス制度の廃止を求める請願」に「協力をお願いします。」

原告団に参加している「苦小牧生活と健康を守る会」の室井光雄会長は、「生活保護基準は社会保障制度の国民的土台であり、あらゆる社会保障政策と連動している。最高裁判決がでたにもかかわらず、厚労省は対応を遅らせており許せない。参院選前は前向きな態度だったが、選挙で日本共産党は議席を減らし、社会

保障費削減をとなえる政党が躍進したとたん、冷たい態度となつて、うやむやにしようとしているのを感じる。まったく許せません」と怒りを込め語りました。

泊原発は廃炉 原発依存転換を

共産党道委員会

3号機適合で抗議声明

日本共産党北海道委員会は7日、原子力規制委員会が、北海道電力泊原発3号機が新規基準に「適合」しているとしたため、政府が北海道や関係自治体に地元同意の要請を行ったことに対して、抗議声明を発表しました。

声明は、「泊原発3号機は再稼働せず廃炉へ、原発依存からの転換を求める」としています。

泊3号機の審査が長期化し12年にも及んだのは、敷地内の活断層の存在を北電側が否定できなかったことや、対策を講じても過酷事故を防げないなどの問題があったためと指摘。●防潮堤が未完成 ●核燃料を輸送する新港建設が始まっていない ●避難計画は道路の寸断による孤立や海底の隆起等を考慮していない ●自治体の「了解」は福島

「消費税減税とインボイス制度の廃止を求める請願」に「協力をお願いします。」

インボイス制度廃止を 日本共産党

生業と暮らしを守るために

第1原発事故以前のものであり、科学者・専門家からは危惧と懸念の声が相次いでいると厳しく批判しています。

「過酷事故が起きれば取り返しがつかない打撃を及ぼす原発ではなく、省エネの徹底と再エネの民主的普及にこそ、国も道も進むべきである」と強調し、道民世論で再稼働を止め、新しい北海道をつくらうと呼びかけています。

◆バカなふりして生きるのやめた 仁藤夢乃著(新日本出版社)1760円(税込)10代の性差別・性暴力を見つめ、少女が搾取や暴力に行きつかなくてよい社会を訴えます。今苦しい状況にある少女たちの痛みを想像し理解しようとする大人でありたい。

「消費税減税とインボイス制度の廃止を求める請願」に「協力をお願いします。」



入党して30年

国会かけある記 いわぶち友で

日本共産党に入党して今年7月で30年。永年党員証の授与式があり、党本部で受け取りました。50年党員の方も一緒に、なんと紙智子さん、元衆院議員の畑野きみえさんも参加していました。

入党した1995年は、大学受験真つた中での1月で阪神・淡路大震災が発生。福島県からも多くの方がボランティアに向かいました。

阪神・淡路大震災経験は、その後の災害、そして東日本大震災にもいかされました。

沖縄で起きた米兵による少女暴行事件に抗議する県民大会が行われました年でもあります。その後も米兵



水不足、高温被害対策で農水省と交渉 (22日)

による暴行事件が止まないもとで怒りの声は広がり、オール沖縄につながっていききました。新たなたかいが大きなうねりになる転換の時期だったのだと思います。

入党後、学生として、地域の一人として、党の専従として、いろいろな場所でも活動してきました。どこでもその場所での力を尽くす党員のみなさんの姿に触れてきました。「日本共産党の一員でよかった」と思う場面が何度もありました。

強烈に実感したのが東日本大震災と東京電力福島第1原発事故の救援活動でした。被災者救援本部が設置され、全国から「自分も何かしたい」と多くの方が駆けつけ、被災された方々の話を聞いて、寄せられた要望を実現させるために力を尽くす。こんな党はほかにありません。

激動の情勢のもと、暮らし、人権、平和を守る正念場のときです。これからもみなさんと力を合わせて、一步一步進んでいきたいと思っています。

岩淵友(いわぶち・とも) 日本共産党参議院議員